

あり、また海軍隊員最後の隊員と見なされ、人同様に戦死した。...

四月五日、海軍隊員が船に乗りこみ、...

四月十日、四月十五日、残存母艦は...

四月十六日、四月二十一日、...

四月二十一日、海軍隊員は...

この二回にわたる攻撃は、各艦人に...

四月十六日、四月二十一日、...

四月二十一日、海軍隊員は...

四月二十一日、海軍隊員は...

四月二十一日、海軍隊員は...

第一中隊戦半経過

第一九七六五部隊 田中 日記

自十二日一日ー至十二日未日 敵潜水艦出没する處の海を渡つて我隊の在り地沖港島に到着
候承せる輸送船は秀山丸約二十トン。官田中尉以下三十一名(水上特攻艇) 我隊の母本島
を離る約七里慶良間列島波島島に上陸す。

此處慶良間列島は才一才二才三戦隊の基地なり。十二日未日迄舟艇整備。破壊箇所甚大
る母本島より整備兵十数名を現に承領す。
兵隊小川曹長石原曹長も活躍せり。

一日一日 昭和二十年五月南海の現島に四へる元旦である。戦隊長以下海岸の大広場に集
合遂行式を終り我隊も後進し、三才隊の一艘舟艇修理完了汽艇船の配給ありたりにより舟艇
の米米糧子等も元旦朝から初取集。

終て官舎に歸り官田中尉以下面々大いに喰い飲む。料理は沖繩船中の山羊なり。
二月三日 午前大尉次郎に集合處。是か中隊の基地沖港島島永着に向て自力運搬と決定出
発凡爾小艇を以て慶良間。本島間約七里を突破せんとす。途中海上線ならす中隊前夜に於て

介後す。小生と原田見留士は本島約一里半前にて生破救助を促して次からと急ぎし。
本島慶士曹長は立派に遊揚す。沖港島地人の船地により全員救助成る。舟艇運搬一
百一十四ト。至三月二十二日。官舎配給隊本島五吉才一才隊(官田中尉)は慶良間才二才隊
(田中隊)名才才三才隊(岸本隊)永着に大々分進す。(編成表別掲)

二月廿一日 慶良間各島に在る各人の舟艇整備

二月廿一日 官舎の整備完了。更に船艇を整へたるた力洞窟に運搬す。連日日々の積案あり。
我々以上を定規更と呼ぶ。三月中旬敵大機動部隊サイパンウルシ方面に集結すの情報あり
す。二十日敵機動部隊は南西諸島方面に向つて進路を取るとの情報入る。威益全買買買の島海
面に在る。

三月二十三日 早速兵隊を準備か海に彼方より歸て各島のサイレンが空襲を傳ふ。敵隊に
介した隊隊隊の和音官軍に向て積案す。和音方面は天に沖し万空を襲ふ。砲臺と砲も敵に
しるに世界大砲の最先端を行く科卒の方には是する術なし。故に外すし。

三月二十三日 本日早退して空襲しとの注意行儀もあつたのだ。十連隊機隊隊足分の
機隊ら。山上にて彼方を眺めおはせ候儀々々。軽装機と先頭に進洋機機と拾ち無人の野を行
く紅し。十一時頃より遂に機隊機隊開始。其の機隊二。吉進に現し本島が天火の如く厚に燃

この重砲の中に入つた弾丸の程を述べたのであります。

四月一日 面北海岸を襲撃し、上陸し、上陸を断絶致しました。上陸までの難處せる岸地破壊と反軍に與へられた海軍的打撃の案は、米軍の上陸隊を妨ぐたるものとし、上陸と同時に同海岸中隊中の海軍砲台一ヶ中隊は全滅し、陸軍部隊石矢面才大十三旅團の松本才十二大隊は甚大の犠牲を生じました。

四月二日から四月六日までの上陸戦の概略は、日一日本軍攻撃の激しさを述べ、又から次に上陸作戦の増大を述べました。この概略に米軍は悉く海軍に協同して戦つた。度々海軍は上陸作戦の一大根據地を築くと云ふ事が解りました。

そこで、野田見習士官以下三名の者に對して、より激戦を演習のため無敵飛行の上昇と居たし、尙ほ代する艦艇の周を巡遊して、度々島の攻撃を演習より演習と打撃せよとの命が下りました。此等演習に及んで船中停止になつたのはこの期の手でありました。また既に米軍は海軍砲台を悉く海軍に破壊せらるゝ以上、戦隊に對する砲地攻撃の命は日ならずしてあるものと判明した。遂に那覇市附近まで再三中隊長や出口普良、和田軍曹、米本軍曹等が作戦となり、艦艇の猛突下の中を往復したのもこの頃の事でありました。

四月二日 出撃命令

戦隊員ごりの呼出しを受けた中隊長は夜を待って池田軍曹を呼喚、戦隊本部の駐屯地を以て行かれました。私等中隊長は攻撃命令を予期して居たのであります。果せるか否か中隊長は驚かすとも所した。四月八日夜半戦隊出撃の命令を伝達せられました。

四月八日 出撃の日が参りました。夜が明けると同時に、ある者は身置の重砲下、ある者は最後の水浴に忙しかけました。どうして夜間の出撃を前に最後の一種をするやうにとやみでありました。然しながら出撃を前にしての午後は、増攻隊を準備せざるには済みません。戦隊は準備そのものでありました。各人の聲は遠く沼川の砲台に、また山河にたゞに或は口にする事はありません。時々刻々出撃の日を待たせ、夕刻に成、中隊長以下三十名、どうして基地中隊の方の下に出撃準備は進められて進行致しましたか。折衝の干渉、その他、何の手帳が手次より進める事二時間にして、中隊長指揮下に出撃いたしたのであります。

四月九日 攻撃と本隊待機